

新たな学びに触れる探究実習（現職教員編）

大学といえば、長くて自由な夏休みが思い浮かびます。現職教員にとっては、懐かしのキャンパスライフを満喫できるチャンスと思われるところですが、そんなことはありませんでした。8月中旬から、大学以外の諸機関での実習が行われました。佐賀大学大学院学校教育学研究科（教職大学院）の履修案内に次のように示されています。

本研究科の理念・目的は「佐賀の地域に必要とされ、学校教育現場の諸課題に対応し、課題解決できるような『開発と省察の往還』による高度な専門性と実践的指導力を備えた教員の養成」であり、この理念・目的に応じて、地域との連携・協働による探究実習を行う。

そこで、教職大学院1年次（M1）は、ストレートマスターには基盤教育実習、現職教員には異校種教育実習または関係機関実習が設けられています。2年次（M2）では、学校課題探究実習、学校変革試行実習があります。

今月号では、20日間の異校種教育実習及び関係機関実習を終えた「授業実践探究コース」「子ども支援探究コース」「教育経営探究コース」別に、現職教員の探究実習での学びを紹介します。



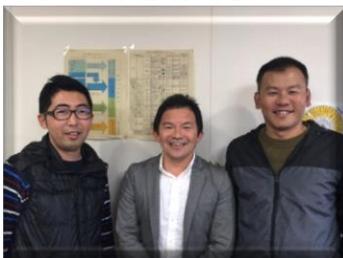
【授業実践探究コース】



「佐賀大学教育学部附属幼稚園」では、子どもたちは、遊びを通して様々なことを学んでいます。園舎の中や園庭で思いっきり遊ぶ子どもたち。先生方の温かさに包まれて、自分らしさを大いに発揮していました。また、幼稚園実習で一番感じたのは、「安心感」でした。安心できる場所だからこそ、子どもたちはのびのびと活動することができると知りました。小学校でも同じように、「安心感」の土台の上に学びが成り立っていくのだと思います。『学級、学校が子ども達の安心できる場所であること。』すべては、ここから始まるのではないのでしょうか。

かわいい子どもたちに囲まれ、充実した20日間となりました。

【子ども支援探究コース】



「学校適応指導教室」では、不登校児童生徒とのかかわりを通して、不登校児童生徒の理解を深めることができました。不登校の要因は、一人一人違ってはいますが、その要因に対する教員としての寄り添い方や居心地のよい環境・関係づくりの大切さを学ぶことができました。

「児童相談所」では、児童虐待について、虐待事例に触れたり研修会に参加したりすることができました。被虐待児の家庭環境や育ちを理解し、関係機関と共に児童の安全安心を保障できるような関係づくりや働きかけを学ぶことができました。

【学校経営探究コース】



「佐賀県教育委員会 教育振興課」では、学校を支える行政機関の業務内容や役割、全国及び佐賀県学力・学習状況調査の結果からみられる佐賀県の学力課題に対して、県は各学校にどのように取り組ませようとしているのか、その方策を学ぶことができました。

「西部教育事務所」では、各学校の課題をどのように捉え、その原因解決のためにどのような指導・支援を行っているのかについて学ぶことができました。また、学校訪問に向けての準備や訪問時の所員の方々の指導・助言の様子から、指導案検討、授業の見方等についても研修を深めることができました。